

人と場へのFM投資価値研究部会

# Web3 時代の「人と場」 FMの未来展望



部会長 岡田 大士郎

おかだ だいしろう

株式会社HLD Lab 代表取締役社長

「Web3」という新しい社会概念が生まれつつある。「分散型インターネット」とも呼ばれ、管理者が存在しなくても、ブロックチェーン等の技術を活用してユーザー同士でデータを管理したり、組織統制を機動的かつ円滑にしたり、個人間でのコンテンツの提供、デジタルデータの移動管理を可能にさせて、暮らしや働くスタイルを劇的に変えてゆく可能性を秘めたエコシステムの形態である。

筆者は、これからの時代、従来型のヒエラルキーに基づく組織形態から、Web3 コンセプト（ブロックチェーン、トークン、メタバース、NFT 等）を導入しながら、より柔軟にかつ機動力のある新しい組織運営の形（アジャイル型ホラクラシー組織やDAO など）が生まれる時代の潮流を感じている。

筆者は、Web3 を志向する組織社会やコミュニティの運営において、FM 総務をはじめとしたバックオフィスの機能や役割が「価値創造型」の機能部へと高度化し、従来の社会意識でもあった「コストセンター」認識から、「経営価値」を創発させてゆく「プロフィットセンター」にトランスフォームしてゆく近未来FM 姿を予測している。

日本社会は、パンデミック経験を経て「仕事」に対する意識と「働くこと」への向き合い方が変わり始めている。いわば、「ワーク・トランスフォーメーション」とも言える社会の潮流の中で、Web3 コンセプトをFM にも織り込んでゆく必要性を感じている。本稿では、Web3 の個別的な解説は割愛するが、人間にフォーカスした価

値創造空間として「バーチャル&リアル ヒューマン・コミュニティオフィス」のあり方と「場」づくりスタイルを「Web3 型ワークプレイス」と見立て、働く人々が「喜びを持って活動」できる「場」づくりのあり方と、組織への「貢献価値（プロフィットセンター化）」の創出を考えてみたい。

「Web3 型ワークプレイス」のベースラインにある理念と目的は、働き活動する人々のリアル&バーチャルの相互性を有するコミュニティ「場」であり、人間の夢中創造の「場」、そして、心身健康を配慮されながら、心理的安全性に満たされ、自他の区別無く人生時間を共有する社会「場」、その中で、人々の知の創発を促進するわくわく意識の「場」として、エンployee・ウェルビーイング（働く人々の幸せ）とコーポレート・ウエルビーイング（組織事業の成功）が調和されている「場」を実現してゆくことと筆者は考えている。

この実現に向けた手段と手法、そして仕組みとシステムがDX やWeb3 といわれる新領域である。FM 総務プロフェッショナルは、組織活力や人々のエンゲージメントパワーを誘発・触発してゆく「場」のプロデューサーたるミッションを持つ。このミッションは「コストセンター」ではなく、「経営価値」を高め、社会への貢献を推進してゆく「ソーシャル・プロフィットセンター」と言えるのではないだろうか。当部会としては、これからもFM とWeb3 が融合した未来型FM のあり方を探究してゆく所存である。◀